



生駒市立鹿ノ台小学校

鹿小だより



鹿ノ台
小
学
校

令和 6年 2月 16日

第 23 号

昔遊び体験

1年生は1月30日(火)、昔遊び体験をしました。地域の老人会のみなさんに来てもらって、けん玉とお手玉、こま回しを教えていただきました。昨年度は感染症の感染防止のため広い体育館を利用しましたが、今年が多目的室で行いました。1クラス45分間ずつの体験学習なので広さは十分でした。

クラスを3チームに分けて15分ずつ3つの遊びをローテーションで体験しました。来ていただいた地域の方は、全部で19人。はじめての遊びなので思うようにできない子につきっきりになって、手取り足取り教えていただきました。じっくりと温かい眼差しで見守り、ときには手を添え、ときには「あと少し！」と励ましの声を掛け、できたときには手を叩いて一緒に喜んでくださっていました。何度も練習して、うまくできた時の子どもたちは飛び切りの笑顔を見せていました。



五色百人一首体験



本来百人一首は、100首の和歌(下の句)が書かれた札を取り合う競技です。その100首を20首ずつ5色に色分けして、作られたのが五色百人一首です。20枚を取り合うだけなので比較的短い時間で試合をすることができます。また、たとえ100首すべて覚えていなくても、20首ずつなら覚えやすく初心者や苦手な人にも取り組みやすくなります。

図書委員会の企画で、五色百人一首体験を、1年、2年、3年、4・5・6年を対象に1回ずつ、計4回実施しました。昼休みの時間、多目的室に10人から15人の児童が集まりました。今年は、青色の札です。

「私たちは、真剣勝負なんです」と20枚の札を間に、身を低くして構える高学年女子。上の句を読み始めたらすぐに札を取りに行く子がいました。初めてなので上の句の言葉でついつい札を探してしまう人もいました。自分の実力に合わせたグループで和やかな雰囲気の中、百人一首を楽しみました。

平和学習の取組 長崎の被爆体験を聴く

3学期に入って、6年生の社会科、歴史の学習も第二次世界大戦、アジア太平洋戦争の学習に入り、児童たちは戦争や平和について調べたり考えたりする平和学習に取り組んでいます。

2月7日には、長崎で被爆された方(長崎平和推進協会継承部会)の被爆体験を聴く機会を得ました。長崎市の国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館からzoomでつないでの講話でした。その方は小学6年生の時に爆心地から2.3kmの地点で被爆。一緒に遊んでい



た友だちとけんかをし別行動をとっていたときに、あの日の11時2分を迎えました。たまたま岩陰を歩いていたおかげで、奇跡的に熱線を浴びずに生き延びることができたそうです。当時被爆した別の方が描いた絵画の解説も交えながら、原爆投下直後の様子を語っていただきました。



生駒市内5校(鹿小、あすか野小、台小、俵小、桜小)の6年生がリモートで集まって学び合う「平和教育プログラム」の取組も進行中です。1月12日には、大分大学の先生が昔話「桃太郎」を軸に問いを投げかけ、争いをひき起こす人間の心理について自分の身近な場面から考えました。2月27日のオンライン授業は、各校で取り組んでいる平和学習での学びを取り入れながら、一人ひとりが平和に対する問いをじっくり深める時間にしていく予定です。

新1年生入学説明会と体験入学

2月2日に令和6年度入学保護者説明会と幼稚園、保育園等の年長さんの体験入学を実施しました。体験入学は、実に4年ぶりです。

一度体育館に集まった園児たちを1年生が手をつないで教室まで連れて歩き、自分の席に座ってもらいました。「かぼんのなかには かぼがいる」という詩を読み、言葉の中に隠れている別の言葉を、いっしょに考えました。そのあと、算数や国語の教科書や道具箱の中身を紹介したり、ランドセルを背負ってもらったりしました。算数の教科書を開いて指で指示して説明するなど、とにかく張り切って、一生懸命な1年生。高揚した気分が伝わってきました。教室での活動が終わると、再び体育館へ移動し、1年生は舞台側に並んで校歌と鹿小賛歌の歌を披露しました。最後には1年生が夏に育てて収穫したアサガオの種を入れた手作りの袋をプレゼントとして手渡ししました。



通級指導教室ってなあに？

自校式(巡回型)の通級指導教室(本校は拠点校)ができて1年目の今年。通級指導教室の目的と取組内容を知ってもらおうと、担当の先生がときどき、クラスに入って啓発授業に取り組んでいます。

「通級教室は、がんばる子を応援するところですよ。『がんばってるのにうまくいかないなあ』『もっと自分に合った別の方法ややり方があるのでは?』とと思っている子たちが、いつもの友だちがいる教室で素敵に輝けるようにそのやり方を見つけたりトレーニングしたりするところですよ」と先生。



ピラミッドの絵を黒板に描いて、教室でかっこよく輝く姿を支

える土台となる力をピラミッドの石組み1つ1つにたとえて、「土台となる力のトレーニング」について分かりやすく子どもたちに説明をしました。

「漢字が書けない」という状況だけにとらわれがちですが、漢字の形を捉えて正しく書き写すときには、目の動きや手の動き、指先の感覚、筆圧の具合などが複合的に作用し調整されているものです。しかし、これらの力のどれかがうまく発揮できなかつたりそれぞれの調整が思うようにいかなかったりする場合があります。こんな場合に、自分の苦手を理解したり、トレーニングしたりするためにワーク教材や機能調整運動などに取り組んでいるのが通級指導教室なのです。

授業の後半は、通級指導教室で実際に使っているワークシートを体験してもらいました。